

『相手のことを思いやり、千人で助け合う青小っ子』

藤枝市立青島小学校

1 ピア・サポート活動年間プログラム

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	ピア・サポート実施週間 1年生を迎える会	<u>出会い／関係づくり</u> 『クラスのメンバーを知ろう』『あいさつゲーム』『友達ってあったかいな』『友達の好みを知ろう』『自分のことを知ってもらおう』『似ているところを見つけよう』	職員会議による提案
5月	運動会 ペア顔合わせ		ピア・サポート 掲示板作成
6月	ペア読書		
7月	ペア遊び		職員研修
8月			
9月	ピア・サポート集会 ペア遊び	<u>聴き方／言語・非言語コミュニケーション</u> 『だるまさんが〇〇をしよう』『まちがえないで聴けるかな』『知らなかった〇〇さんのこんな一面』『上手に聴こう』『上手に話を聴けるかな』『もっと上手に話を聴けるかな』	
10月	陸上選手励ます会 親善音楽会励ます会 ペア遊び		
11月	ペア遊び ペア読書 校内音楽会	<u>自己表現／言語・非言語コミュニケーション</u> 『くまとあなぐら遊びをしよう』『いろいろ違って楽しいね』『認めてもらえるってうれしいな、認めるって素敵だな』『上手に頼もう』『気持ちの伝え方を知ろう』	ピア・サポート 掲示板作成
12月	ペア遊び		
1月	ピア・サポート実施週間 ペア読書 ペア遊び	<u>対処・対応／怒りのコントロール</u> 『どんな気持ちかな』『心の中の鬼をさがそう』『今のわたしの気持ちは何色？』『自分の気持ち・みんなの気持ち』『怒りの気持ち』	教育課程 振り返り
2月	6年生ありがとうの会 ペア遊び		次年度 年間計画提案
3月	ペアさんありがとうの会 ペア遊び		

研修
生徒指導
特別活動

本気で考え
本音で語り合う授業

めざし、積極的な生徒指導を行う

良さを認め合うピア・サポートの推進

自分にとっても周りにとっても良い行動は何か、自分で考え実行する子を

2 本校のピア・サポート活動の紹介

本年度、本校では特別活動の重点として「よさを認め合うピア・サポートの推進」を掲げ、思いやりあふれる学校づくりに向けてピア・サポート活動に取り組んだ。前年度から引き続き日常生活や行事の様々な活動をピア・サポートの視点で捉え、関わりの質を高めることをねらいとし、児童会や委員会の活動を中心に考え取り組んだ。

(1) 児童会・委員会での推進活動

①「あおじまん」

本校では、平成26年度に生まれた「あおじまん」というキャラクターを引き継ぎ、児童会の子どもたちが「あおじまん」に扮して行事や放送で登場している。「あおじまん」の決め台詞は児童会活動のスローガンになっているためどの子にもわかりやすく、低学年から高学年まで「あおじまん」に親しみを持ち、呼びかけに応えようとしている。本年度は、「あおじまん」の活動を更に盛り上げる「わるじまん」が登場した。「あおじまん」たちは、よりよい行動とは何かを子どもたち自身が考え、一人でも動けるように劇などを使って手本を見せ、全校児童の活動をサポートしている。また、児童への呼びかけだけでなく、保護者が来校する行事等に登場することで、ピア・サポートを家庭や地域にアピールする機会にもなっている。



<提言6：子どもたちの組織を生かす>

<提言8：家庭や地域に積極的にアピールする>

②あいさつ活動の推進

児童会中心に「あおじま11人先取り名前あいさつ青小カップ」や「みんなで目指そう1000人1000回進んであいさつ大作戦！」など年間を通してあいさつ活動を行った。「あたたかい学校」を目指し、6年生が手本となり呼びかけ、気持ちの良いあいさつができた児童の写真を全校掲



示板に掲示した。6年生の思いに応じて「ぼくもやろう！」と挨拶する低学年が増え、2学期の終業式では児童会の1113人の達成報告に歓声と拍手が巻き起こった。

<提言7：「見える化」で子どもたちの取り組みを認める場を作る>

③ピア・サポートの紹介・認め合い

常時活動として全校児童からピア・サポートを募り、全校掲示板の「ピア・サポートの花」に掲示した。ピア・サポート委員会は、より多くの人のためになるピア・サポートの気づきを増やしたいと呼びかけを行った。前年度より、本校の児童は友達との関わりの中でピア・サポートをたくさん見つけ、感じる事ができている。更に様々なピア・サポートに気づけるように「友達」「クラス」「ペア」「同学年」「地域の人」「他学年」「先生」という視点を設け、ポスターを使って具体例を示した。また、聞き取りを担当が行って書くなど、書くことが苦手な児童も参加しやすいようにした。



<提言7：「見える化」で子どもたちの取り組みを認める場を作る>

④ピア・サポート集会

昼休みを使い、ピア・サポート集会を行った。必ずペアで参加するなど、ルールを工夫してゲームを行うことで「ペアや、知らない人ともゲームを通して仲良く関わる」ことを目標に、全校児童の多くがルールや遊び方を知っている猛獣狩りを行った。集会後のアンケート調査では、95%の児童が目標を達成できたと回答し90%の児童が楽しかったと回答した。ペアや他のクラスの子と交流を楽しむ姿や、高学年がリードしてグループを作る声かけをする姿など児童の関わりがたくさん生まれる集会になった。また、アンケート調査の結果をピア・サポート委員会の6年生に伝えることで準備や練習を頑張った児童の自己肯定感を高めることにもなった。

<提言6：子どもたちの組織を生かす>

<提言5：実践後のふりかえりを大切にする>

(2) 学級・学年での取り組み、異学年交流
1・6年、2・4年、3・5年がペア学年となり、年間を通して様々な関わりを大切に活動している。4～5月でペアと出会いの会を行った。自分のペアを意識して名刺を送り合った学年は、「低学年だから漢字にはひらがなをつけた方がいいな」「きれいに色をつけた方がお姉さん喜んでくれるかな」などそれぞれの立場で相手のことを思って作成していた。

昼休みに設定されたペア遊びを楽しみにしたり、ペア読書や読書郵便など委員会の企画に

ペアで参加し、本選びや読み聞かせの練習を頑張ったり、児童が相手意識を持って活動に取り組む姿が見



られた。低学年は高学年のペアの優しい関わり方に憧れを持ち、高学年になると「自分たちがお手本」「あの時（自分が小さい時）こうしてもらってうれしかった」「楽しませてあげたい」という気持ちから、だんだん関わり方を考えて声をかけられるようになっていく。低学年が高学年を秋祭りに招待したり、読み聞かせをしたりする活動もあり、自分がしてもらうだけでなく、うれしかった気持ちや感謝を伝え合えるような活動を通して、低学年も相手に対する意識を高められた。

<提言4：活動と活動を結びつけ、意図的・計画的な指導を展開する>

(3) 行事と絡めた取り組み

杉星キャンプ（特別支援学級）、自然体験教室（5年）、修学旅行（6年）の際に、交流学級やペア学年がお守りを作って渡したり、お帰りメッセージを送ったりした。

親善音楽会（4年）、陸上大会（6年）の前には「励ます会」として、全校で出場する児童を励ます機会を設定した。大会等に出場する児童は応援してもらっているという思いを持つことで自尊感情を高め、励ました児童は応援することを通して友達の頑張りを認め支えようという優しい思いを持つことができた。

運動会や音楽会では、児童会やピア・サポート委員会が中心となって「友達をあたたく応援しよう」「友達の演奏を大切に聴こう」



といった約束を呼びかけ、行事の中で相手を思いやる気持ちを育てていった。

<提言4：活動と活動を結びつけ、意図的・計画的な指導を展開する>

3 本年度の成果と課題

○児童会・各委員会活動を通して全校児童の中にピア・サポートをしようという意識が徐々に浸透し、行動しようとする児童が増えている。

→あいさつ活動、ペア読書、ピア・サポート集会だけでなく、保健委員会のトイレのスリッパをそろえる呼びかけの放送など様々な委員会活動を通して、児童があたたかい関わりのある学校にしたいという気持ちを持ち、6年生がリーダーとして活動している。6年生に協力しようとする他学年の姿がみられ、異学年での交流の機会が増え、かかわり合い、支え合う行動が広まっている。

●ピア・サポートができる子と、思っても行動まではできない子の差が大きい。

→全体で見ると、自分で考えてよい行動をしようとする姿や、各委員会の企画した活動に積極的に参加しようとする姿などが増え、あたたかい関わりや優しい言葉などを大切にしようという雰囲気があるが、「一人でもできる」までは到達していない子も多い。中には、ピア・サポートが具体的な行動と結びついていない児童もいる。日常生活の中にピア・サポートがたくさんあり、自分もしてもらっているということに気づき、感謝できる児童を育てたい。

4 来年度に向けて

本年度、様々な場面で子ども同士が励まし、認め合い、仲良く関わる姿が見られ、学校全体にあたたかな雰囲気を広げることができた。児童の意識にも「ピア・サポートはするものだ」という意識が根付いてきている。来年度は、引き続き児童会活動や委員会活動を中心に全校生徒に呼びかけるとともに、個の成長を促す指導をしていきたい。